

宝本 エピソード

宝本って？

… 家族共通の思い出の一冊や、自分の成長に影響を与えた一冊など、自分や家族にとってかけがえのない一冊になった本のことです。

令和2年度に応募いただいた宝本エピソードの中から数点をご紹介します。

【書名】

せんたくかあちゃん

【著者名】

さとう わきこ

【出版社】

福音館書店

【エピソード】

私が3才のころから、お母さんが夜ねる前に読んでくれていてとてもきおくに残っている本です。今でも読み返してみると、ユニークな話で、すごくおもしろいです。「せんたくかあちゃん」は、何でも洗ってしまうかあちゃん、雷様の子どもがおちてきたときも、「きたない!」と言って洗ってしまいます。お母さんが保育士なので、その人物になりきって、声を変えながら読んでくれていたので、楽しかったです。

「せんたくかあちゃん」をしょうらい、自分の子どもに読んであげたいです。

【書名】

ちょっとだけ

【著者名】

瀧本 有子

【出版社】

福音館書店

【エピソード】

ぼくに、いもうとがうまれたときからおかあさんがよんでくれました。あかちゃんのおせわでいそがしいからちょっとだけじぶんのことをじぶんでしたり、ちょっとだけがまんをしたりするえほんです。ぼくもそんなふうにならないうちにちゃんになれたきがします。



【書名】

さっちゃんのまほうのて

【著者名】

たばた せいいち

【出版社】

偕成社

【エピソード】

私は、この本を読んで感動したので、とっても印象に残っています。手がなくても、お母さんの言葉で感動するさっちゃんをみて、私も感動しました。さっちゃんみたいに手がなくてもおししない、仲良く遊んであげたいと思いました。私はある男の子ですくわれたのと、お母さんの言葉ですくわれたと思いました。世の中には、たくさんの障害を持っている人がいるので、お母さんや男の人になれるようにしていきたいと思いました。

宝本 エピソード

宝本って？

… 家族共通の思い出の一冊や、自分の成長に影響を与えた一冊など、自分や家族にとってかけがえのない一冊になった本のことです。

令和2年度に応募いただいた宝本エピソードの中から数点をご紹介します。

【書名】

はらぺこあおむし

【著者名】

エリック・カール

【出版社】

偕成社

【エピソード】

私の小さいころからずっと家にある本。母が仕事で帰りの遅い日が多かった。だから兄と何回も読み返していた。今でも大事にとってある。最近、大そうじをしていたら見つけて久しぶりに読んでみた。そうしたら、すごくなつかしくて兄と読んでいたことを思い出した。今は、兄は高校で寮に入っているのでなんだか寂しくなった。これが私の宝本です。

【書名】

おはなし！
コウペンちゃん

【著者名】

深山 くのえ

【出版社】

小学館

【エピソード】

お母さんにおねがいしてたん生日プレゼントとして買ってもらった本です。かわいいコウペンちゃんのイラストがいっぱいあると思っていたけど、文字がいっぱいの物語でびっくりしました。読みはじめたらとまらなくて、お母さんといっしょにひとばんで2さつを読み切りました。なやんでいる人などに「それでいいんだよ!」とこうていしてあげるコウペンちゃんのかawaiiさとゆるさにメロメロになりました。

【書名】

おめでとう

【著者名】

いとう えみこ

【出版社】

ポプラ社

【エピソード】

わたしがこの本を図書室で見つけた時おかあさんのおなかの中に、赤ちゃんがいました。この本は、赤ちゃんが生まれてから、一才になるまでのせい長が書いてあります。わたしの生まれた妹が、せい長するごとに、なん回もかりて、読んでしまうたいせつな本です。



宝本 エピソード

宝本って？

… 家族共通の思い出の一冊や、自分の成長に影響を与えた一冊など、自分や家族にとってかけがえのない一冊になった本のことです。

令和2年度に応募いただいた宝本エピソードの中から数点をご紹介します。

【書名】
あなたの声が
ききたい

【著者名】
岸川 悦子

【出版社】
佼成出版社

【エピソード】

聴覚障害の両親に育てられて、ふつうの人とちがう生活で辛いことがたくさんあったけど、言葉や物の名前など、いろんなことを教えてくれたのが、おばあちゃんでした。ある日、お母さんが、自分とはちがう声を出すのにむかづいてしまい、大声でひどいことをいってしまいました。それがゆるせなかったお父さんは、テレビの音を消して、「これが、耳がきこえないということだ」というふうにいるところで私は、幸せだなと感じました。そういう人たちを私は助けたいです。なので、私はしょうらい、ヘルパーさんになりたいです。

【書名】
ちいさなあなたへ

【著者名】
アリスン・マギー

【出版社】
主婦の友社

【エピソード】

私が生まれたときからある本です。ずっと本だなに入っていました。読むと、「お母さんもこうだったのかなあ」とか「私もいつかはこんな体験するのかなあ」と未来のことにワクワクし、お母さんに「私が小さいころってどんな感じだったの?」と聞いて話がはずむ特別な本です。



【書名】
ぼくのふとん

【著者名】
すずき のりたけ

【出版社】
PHP研究所

【エピソード】

このえほんのなかにてでくる「あるふとん」や「うどんふとん」や「ふとんすらいだー」など、こんなふとんがあったらおもしろそうだなあとおもったふとんがたくさんあったからです。うどんふとんは、たべながらねむれそう、とおもったのしいきもちになりました。くものうえのふとんは、くものうえでねることができるのがすごい!ねてみたい!というきもちになりました。ぜんぶのふとんにねてみたいとおもったから、このほんをえらびました。

宝本 エピソード

宝本って？

… 家族共通の思い出の一冊や、自分の成長に影響を与えた一冊など、自分や家族にとってかけがえのない一冊になった本のことです。

令和2年度に応募いただいた宝本エピソードの中から数点をご紹介します。

【書名】
ダンゴコロちゃん

【著者名】
タダ サトシ

【出版社】
PHP研究所

【エピソード】

このおはなしは、女の子と大きなだんご虫のコロちゃんとの出会いやたのしいできごとのお話です。女の子はだんご虫が大スキです。わたしもだんご虫がスキなので、女の子のスキもちがわかるお話でした。だんご虫といっしょにあそんだり、だんご虫のよろこぶことをしてあげたり。すると女の子がこまっているときだんご虫がたすけてくれました。だれかにいいことをしてあげるとじ分がこまっているときは、だれかがたすけてくれるのだ、すごいなあと思いました。わたしもこのお話のようにだれかをたすけてあげられる女の子になりたいです。

【書名】
ぼくのおふろ

【著者名】
鈴木 のりたけ

【出版社】
PHP研究所

【エピソード】

主人公が、そうぞうしているいろいろな形のおふろがでてきます。毎日毎日同じおふろ、たまには、ちがうおふろに入りたいという主人公の思いから、いろいろなおふろが出てきます。たとえば一度まようとのぼせちゃうめいろ。空をとんでうちゅうまでいくおふろ。よんでいるだけで楽しいえ本です。でも最後主人公は、やっぱり家のおふろが一番だということに気づく本です。最初から最後のページまでアヒルとカエルのおもちゃがかくれているのでさがしながらよむのも、楽しかったです。

【書名】
えんそくの
おばけずかん
おいてけ
バスガイド

【著者名】
斉藤 洋

【出版社】
講談社

【エピソード】

四年生の四月ころぼくは、本屋さんに行っておばけ図かんの最新かんを買いました。お母さんと妹にも読ませて、妹が笑ったりしていました。ぼくが、たなの所に本を置いたら妹が取って見ていました。妹は、おばけずかんが、好きだなと思いました。次のおばけずかんが来て買ったら、三人でおもしろく読んだり見たいです。



宝本 エピソード

宝本って？

… 家族共通の思い出の一冊や、自分の成長に影響を与えた一冊など、自分や家族にとってかけがえのない一冊になった本のことです。

令和2年度に応募いただいた宝本エピソードの中から数点をご紹介します。

【書名】
わけあって
絶滅しました。

【著者名】
今泉 忠明

【出版社】
ダイヤモンド社

【エピソード】
この本は、昔いたいきものの絶滅したわけを書いた本です。わけを知って、少しでも勉強になると思います。わたしも、この本を読んでいると、知っているいきもの、知らないいきものがいて、「こんないきものがあるんだなあ」と知ってびっくりします。



【書名】
どうぞのいす

【著者名】
香山 美子

【出版社】
ひさかたチャイルド

【エピソード】
この本は、おばあちゃんからもらった本です。「本は、好き？」と聞かれたので、「本、大好き。」と答え、「じゃあ、良かった。」と言って、この本をくれました。当時わたしは、もう少し長めの本を読んでいたのに、「絵本？」と思いましたが、読むと、とても面白くなり、今でも毎ばん読んでもらっています。もっと、本が好きになりました。

【書名】
くれよんのくろくん

【著者名】
なかや みわ

【出版社】
童心社

【エピソード】
わたしが、お母さんにげきをしてあげた本です。この本には歌を歌って読むところがあります。この本を読む時、お母さんはいつも歌いながら読んでくれます。とてもおもしろくて楽しくなれる本です。
小さいころげきをして、始めて読んだこの絵本は、私と母の宝本です。

宝本 エピソード

宝本って？

… 家族共通の思い出の一冊や、自分の成長に影響を与えた一冊など、自分や家族にとってかけがえのない一冊になった本のことです。

令和2年度に応募いただいた宝本エピソードの中から数点をご紹介します。

【書名】
みずをくむプリンセス

【著者名】
スーザン・ヴァーデ

【出版社】
さ・え・ら書房

【エピソード】
アフリカにすむジージーというおんなのこのおはなしです。ジージーは、あさはやくおきて1にちぶんのみずをとおいかわへくみにいかなくはなりません。くんできたみずは、よごれています。
ぼくは、アフリカにすいどうがないことをはじめてしました。みずやでんきをかぞくてたいせつにするきっかけになったほんです。

【書名】
ママはかいぞく

【著者名】
カーヌ・シュリュク

【出版社】
光文社



【エピソード】
図書館で見つけて、すごく気になってかりました。お母さんも病気をしたことがあったけど、今ではとても元気です。でも、時々すごくつかれていることもあります。その時は、お手伝いをしてあげると、とてもよろこびます。病気と伝えられたときは、すごくショックでした。元気になった時は、すごくうれしかったです。お母さんもいろんな人にささえられて元気になりました。わたしも、お手伝いをがんばりたいです。

【書名】
100日後に死ぬワニ

【著者名】
きくち ゆうき

【出版社】
小学館

【エピソード】
私がたん生日プレゼントで私のおばが買ってくれた本です。
この「100日後に死ぬワニ」という本がテレビで話題になっていると放送されているのを見てすごく気になりこの本を買って何度も読み返しました。ワニが死ぬまでの100日がえがかれている本です。
この本を読んで、命の大切さや1日1日がとても大切だということをあらためて知ることができました。

宝本 エピソード

宝本って？

… 家族共通の思い出の一冊や、自分の成長に影響を与えた一冊など、自分や家族にとってかけがえのない一冊になった本のことです。

令和2年度に応募いただいた宝本エピソードの中から数点をご紹介します。

【書名】
えんとつ町のプペル

【著者名】
にしの あきひろ

【出版社】
幻冬舎



【エピソード】

この本は、お母さんがクリスマスの日、ぼくに買ってきてくれたお気に入りの本です。この主人公のプペルはゴミ人間できらわれていたけど、ルビッチが助けてくれて、だれどルビッチがいじめられて、プペルをきれいにします。なんと、プペルの正体はルビッチのお父さんでした。ぼくは、このようなことが、あったらすごいなと思いました。この本は、ぼくとお母さんの宝物です。

【書名】
ちいさなあなたへ

【著者名】
アリスン・マギー

【出版社】
主婦の友社

【エピソード】

お母さんが買って来てくれて、最初読んだ時は意味が全く分かりませんでした。でも、何度もくり返して読んでいくうちに話の意味が分かり、その本が好きになりました。

その内容は、お母さんが女の子の赤ちゃんを産み、その女の子はどんどん成長していき、大人になって赤ちゃんを産み、お母さんはおばあちゃんになり、お母さんが産んだ女の子は大人になり、赤ちゃんを産んでお母さんになる、という話です。なので、命はつながっていったというのが分かり、とてもいい本です。今は家族みんな好きな宝本です。

【書名】
えんとつ町のプペル

【著者名】
にしの あきひろ

【出版社】
幻冬舎

【エピソード】

この本は、私の友達がしょうかいしてくれた本です。小学生のときに友達が「この本すごくいいお話だよ」と言って手にとったのがこの本でした。読んでみるとはじめは少し悲しい話だったけど、現代にいくにつれて、どんどんいい話になっていきました。

その中でも私の心に残ったことは、人はいつも1人じゃないこと、仲間がいるありがたさなどです。私はこの本をなにかいやなことがあったときや悲しいことがあったときなどに読んでいます。この本をしょうかいしてくれた友達に感謝して、私もとなりにいる人を大事にしたいと思います。

宝本 エピソード

宝本って？

… 家族共通の思い出の一冊や、自分の成長に影響を与えた一冊など、自分や家族にとってかけがえのない一冊になった本のことです。

令和2年度に応募いただいた宝本エピソードの中から数点をご紹介します。

【書名】
初恋の続きをもう一度

【著者名】
MINATO

【出版社】
スターツ出版

【エピソード】

私は、この本で、身近な人の命がどれほど大切なのかがよく分かりました。

この本をとったときは、絵がすてきで、いいなと思っただけでした。でも、いざ読んでみると、すごく感動しました。

自分のしたっている人が亡くなり、落ちこんでいるときに、亡くなる前に戻り、また生活していくという話で、その2人の絆にとっても感動し涙が出ました。友達や家族などの自分の身近な人との関係が良くないときに、これを読むと、立ち直れたり、勇気をもらえます。

この本はずっと私の宝本です。

【書名】
マララさん こんにちは

【著者名】
ローズマリー
マカーニ

【出版社】
西村書店

【エピソード】

この本は、私が、小学生のころに友達に紹介してもらった本だ。

最初は「読んでみようかな。」という気持ちでとったが、読み進めていくうちに、この本に出てくる主人公の優しさや勇敢さにどんどんひきこまれていった。主人公はマララというとても勇敢な女の子で、すごくすごく強くて、平和を誰よりも願っていて、私はマララみたいになりたいと思うと同時に、日本が平和であることは決してあたりまえではなく、幸せなのかと改めて強く実感した。

この本で学んだことを忘れることなく、これからを過ごしていきたい。

【書名】
秘密

【著者名】
東野 圭吾

【出版社】
文春文庫

【エピソード】

この本は、中学二年生のときに初めて自分で買った本です。父が東野圭吾さんの本をたくさん持っているのも自分でも買ってみようと思ったのがきっかけです。ある事故をきっかけに娘の体の中に妻の魂がのり移ってしまうというあらすじです。終盤で、主人公である夫は妻との秘密に気づきます。題名になっている「秘密」という言葉は読み終わると同時に大きな衝撃と感動を与えてくれました。家族の絆について考えさせられるこの本は、私にとって宝本です。



宝本 エピソード

宝本って？

… 家族共通の思い出の一冊や、自分の成長に影響を与えた一冊など、自分や家族にとってかけがえのない一冊になった本のことです。

令和2年度に応募いただいた宝本エピソードの中から数点をご紹介します。

【書名】
ヒロシマをのこす

【著者名】
佐藤 真澄

【出版社】
汐文社

【エピソード】

私の宝本の「ヒロシマをのこす」という本は1945年8月6日午前8時15分に広島に落ちた原爆を物語る本だ。原爆をくらった人には後遺症などがのこったという。この前8月6日にテレビをつけると「広島記念式典」があった。安部首相がスピーチでかくへいきのない世界にしたい。と言っていた。それは私も共感できる。核兵器がなかったらもう戦争はないと思う。戦争にもうしたくない。

【書名】
100万回生きたねこ

【著者名】
佐野 洋子

【出版社】
講談社



【エピソード】

悲しいねこの話で、主人公のねこは100万回死んでいて、一番自分のことが好きなねこでした。ですが、ある日、自分に見向きもせず、ただ座っている白いきれいなネコに恋をして、その白いねこが死んだとき、主人公のねこは、初めて大泣きして主人公のねこもそのまま亡くなりました。これを読んで自分は、親とも仲良く人や動物、などを大切にしたい。大切な物、人、動物を失ったらぞんぶんに泣いて生きていきたい。

【書名】
君たちはどう生きるか

【著者名】
吉野 源三郎

【出版社】
マガジンハウス

【エピソード】

生きるために必要なことを主人公、潤一、通称コペル君の叔父がコペル君に手紙として教える話です。この本は、母が買ってきてくれた本で、小説とまんが、どちらもあり、私は、まだ、まんがしか読んだことないけれど、いつか小説の方も読んでみたいです。

この本を読んで私は、生きることについて深く考えることができました。この本のおかげで、生きるために必要なことを得ることができました。

